

世界に羽ばたけ！ 米山学友^{②④}

奨学生の誇りを胸に

苦学の中でつかんだ日本留学

米山学友タイ・ヴァン・ナムさんは、ベトナム北部タイビン省の貧しい家庭に生まれました。両親ともに障害があり、幼いころから学費と生活費を稼ぐために、働く必要がありました。中学卒業後、叔母一家に引き取られたものの、高校卒業と同時に家を出され、苦労しながら国内最難関とされるベトナム国家大学ホーチミン市自然科学大学を受験。全受験者中2位の好成績を取めたため、入学金・授業料免除、政府と日本企業からの奨学金も支給される特待生として進学を果たしました。

在学中もアルバイトで妹の養育費を稼ぎ、親に仕送りしながら、学部・修士課程を首席で卒業。博士課程に進んだナムさんは、ある日、「現地採用ロータリー米山記念奨学生募集」の新聞広告に目を留めました。

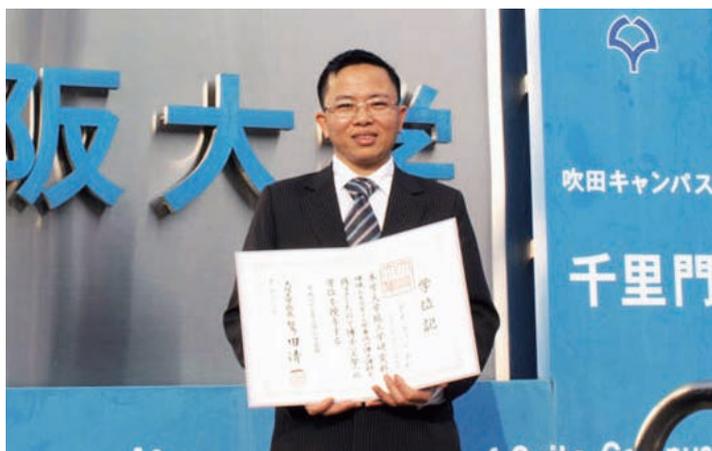
入学金・授業料のほか寮費も支給され、日本語研修期間と博士課程3年間の奨学支援という好条件に、すぐに応募を決意。市内の語学学校で半年間、日本語研修を受け、幸運にも最終選考を突破し、第1期奨学生2人のうちの1人に選ばれました。

妹の養育のため、アメリカとオーストラリアの留学奨学金を辞退したナムさんにとって、日本留学は最後のチャンス。しかし、それは結婚して間もない身重の妻を残していかなければならない、つらい決断でした。

愛娘の名前に願いを込めて

2007年6月来日、翌春の正式入学を目指し、語学学校で日本語研修を受ける傍ら、大阪大学にも研究生として通うハードな日々が始まりました。

世話クラブの千里ロータリークラブの初例会では、会員全員からの温かい歓迎で、それまでの緊張が一気に解け、その日から日本を「第二の故郷と思うようになった」と言います。カウンセラーの稲邑清也会員は大阪大学名誉教授であり、その助言は、慣れない留学生活の中で、大きな心の支えになりました。



学位記を手にするナムさん(大阪大学にて)

その年の暮れ、日本語の集中授業と入試のプレッシャー、出産間近の妻からの「帰ってきてほしい」という悲痛な叫びに、ナムさんの心は、押しつぶされそうになっていました。心配した地区米山委員会メンバーや世話クラブの会員の応援で、一時帰国が実現。出産に立ち会ったナムさんは、愛娘に「ニュット・ヴィ」と命名しました。ニュットは「日本」、ヴィは「ベトナム」。両国の交流が進むように、との願いを込めました。

危機を救ったカウンセラーからの励まし

大阪大学大学院博士課程に無事合格すると、指導教授の勧めでエコラベリングを研究することになりました。環境保全に役立つとされるエコラベルは、発展途上国から先進国に製品を輸出する際にも効果的なツールであり、その環境基準と制度確立の研究は、途上国の経済発展に寄与すると期待されています。

友人もでき、研究生生活は順調に進みましたが、博士課程も半分が過ぎたころ、論文投稿の締め切りに追われ、プレッシャーから体調を崩し、眠れぬ日々で苦しむようになりました。一時は「死ぬことが最善の解決策ではないか」とまで思いつめたというナムさんを、泥沼の精神状態から引き上げてくれたのは、稲邑会員でした。

稲邑会員は、ナムさんを食事に誘い、自身が博士課程の学生だったころの経験を話して聞かせました。論文が思うように書けない焦り、将来への不安、「それは誰も

2008年11月号から連載の本シリーズも今回で最終。ラストを飾るのは米山記念奨学金の原点帰帰プログラムとして、ベトナムを対象に試行された「現地採用米山記念奨学金」の第1号奨学生、タイ・ヴァン・ナムさんです。向学心ある若者を見いだし、支援するこの夢のプログラムで来日した彼は、この3月、大阪大学で目標の博士号を取得して帰国。今まさに羽ばたこうとする、ナムさんをご紹介します。



「が通る道なのだ」という言葉に、ナムさんは「心が楽になり、救われる思いがした」と言います。

指導教員からの親身な助言・指導も得、危機を乗り越えたナムさんは、国際学術雑誌に4つの論文を掲載、国際会議で2つの論文を発表するなど堂々の成果を挙げ、見事3年で学位を授与されることになりました。

今年3月25日、大阪大学吹田キャンパスで開かれた学位授与式には稲邑会員も出席。また、第2660地区米山記念奨学委員会の磯田郁子委員長、地区ガバナー事務所職員の栗正久美さんも駆けつけ、門出を祝いました。

羽ばたく学友にエールを

学位授与式の2日後、ナムさんは3年9か月にわたる日本での生活に別れを告げ、家族の待つベトナムに帰国しました。今年4月からホーチミン市工業大学の教員として勤務しています。

稲邑会員は、「彼はまじめで、じっくりともの考えるいい感性を持っている。それを伸ばして行ってほしい」と、研究者としての前途にエールを送ります。また、磯田委員長は「ナム君が、最後までやり遂げたことを誇りに思います。日本で学んだことを忘れず、時々は連絡も取ってほしい。いつか懸け橋の名前をもつニュット・ヴィちゃんを日本に留学させてくれたら、そのときはまた、全力でお世話します」と、語りました。

ナムさんは「ホーチミンにロータリークラブをつくる

プロフィール

タイ・ヴァン・ナムさん

(2007 - 11年 / 千里RC) ベトナム出身。現地採用ロータリー米山記念奨学金第1期生として07年6月来日。08年4月、大阪大学大学院工学研究科博士課程に入学。11年3月、工学博士号を取得して帰国。同年4月、ホーチミン市工業大学の環境生物工学部副学部長に就任。



こと」を、将来の夢の一つに挙げました。国情からロータリーのないベトナムに、いつかナムさんたち米山学友の力でクラブができれば——。

「皆さまの期待される通りになれないかもしれませんが、私は、米山記念奨学生の名誉を汚さないように最善を尽くします」とナムさん。彼のように、これから羽ばたこうという若い米山学友たちを、私たちは見守り、応援していきたいと思えます。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281

Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

避難所で水餃子の炊き出しボランティア —— 第2780地区・第2520地区米山学友会 ——

4月23日、第2780地区(神奈川)と第2520地区(岩手・宮城)の米山学友会有志が、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県名取市の2か所の避難所を訪れ、水餃子4,300個を振る舞ったほか、1,000足分の靴下や野菜、台車などの物資を届けました。湯気の立つ水餃子を頬張る被災者の姿を見て、第2780地区学友会会長の王剛さん(2005 - 06 / 海老名RC)は「これで終わりではなく、スタートにしたい」と、決意を新たに。また、同行した第2520地区米山委員の小嶋道夫氏は「地元でもなかなかできない素晴らしい企画」と、その行動力をたたえました。第2780地区学友会はこのほか、米山記念奨学会を通じ、被災地に70万3,000円の義援金を寄付しました。



避難所で水餃子を振る舞う学友たち